

東アジア古典学の方法第 53 回

東アジア古典学の フロンティア

—書記表現から見えてくるもの—

プログラム

総合司会 齋藤希史 (東京大学)

【3月15日(金)】

14:00 上代セッション 司会: 道坂昭廣 (京都大学)

「古代文字史の転換期—Motive, Means, and Opportunity」

David Lurie (コロンビア大学)

「日本上代表記史の捉え方」

矢田勉 (東京大学)

15:40 中古セッション 司会: 金沢英之 (北海道大学)

「定説からの離脱—『源氏物語』「別本」を考える—」

佐々木孝浩 (慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫)

「『源氏物語』写本の表記」

田村隆 (東京大学)

【3月16日(土)】

10:00 中世セッション 司会: 田村隆 (東京大学)

「中世の『日本書紀』注釈—漢字世界と声の世界の間で」

金沢英之 (北海道大学) 徳盛誠 (東京大学)

12:30 近世セッション 司会: 徳盛誠 (東京大学)

「日本で漢詩を作るといふこと—津阪東陽『夜航詩話』から」

道坂昭廣 (京都大学)

「擬古と華音—近世日本漢詩の指向として」

齋藤希史 (東京大学)

14:10 総合討論 司会: 馬場小百合 (帝京大学)

【討論参加者一覧】

松原舞 (東京大学・特任研究員)	北川原慧琳 (東京大学・博士課程)
飛田英伸 (東京大学・博士課程)	佐藤嘉惟 (東京大学・博士課程)
武茜 (東京大学・博士課程)	関谷由一 (北海道大学・共同研究員)
高尾祐太 (北海道大学・博士課程)	間枝遼太郎 (北海道大学・修士課程)
張 齡云 (京都大学・博士課程)	成 高雅 (京都大学・博士課程)
デフランス・アーサー (パリ国立高等研究員 (E.P.H.E))	

2015年から4年間にわたって行なってきた本研究プロジェクトでは、東アジアにおいて、書かれ、編まれ、引用と参照を繰り返されてきたものとしての「古典」とそれを研究する方法としての「古典学」について、討議を重ねてきました。その一つの締めくくりとなる今回の研究集会は、私たちの方法の原点が書記表現の分析と考究にあることを改めて確認しつつ、書かれたものとしての「古典」がどこまで力を持ち得るのか、私たちの分析と考究がどこまで届くのか、いわば「古典学のフロンティア」を拓くべく、上代から近世にいたるまで、4つのセッションを設け、2日間にわたって討議します。

事前申込・定員制

東京大学駒場キャンパス

18号館

コラボレーションルーム 2

会場

日程

2019年3月15日(金)

16日(土)